



## 山高み 白木綿花(しらゆうばな)に 落ちたぎつ 瀧の河内は 見れど飽かぬかも



8月の万葉集 巻6-909 笠金村  
(山が高いので白い木綿(ゆう)で作った花のように、激流がほとばしるこの滝の河内は見飽きることがありません。)

### 改めて、スポーツの素晴らしさを感じました！

立秋も過ぎ、暦の上では秋となっていますが、まだまだ暑い日が続いています。夏休みも残すところ2週間となり、子どもたちにとっては、そろそろ夏休みの課題を終えなければという思いで、気持ちの上で少し憂鬱な日々を迎えている頃ではないでしょうか。

7月号で、私は、この夏休みに昨年経験できなかった自然体験をしてほしいと書きましたが、新型コロナウイルス感染症が収束するどころか7月下旬からさらに拡大し、首都圏をはじめ、大阪や沖縄には4度目の緊急事態宣言が出されると同時に、他府県にもまん延防止対処措置も発令されました。そのために、予定していた家族の旅行等での自粛を余儀なくされ、自然体験はほとんどできなくなったのではないのでしょうか。少し残念な気がします。

そんな新型コロナが拡大する中、東京2020オリンピックが実質19日間、東京を中心に33競技、339種目が205の国や地域からのアスリートの参加で開催されました。開催には賛否両論があったものの、スポーツ好きの私は、テレビを通じてアスリートがこれまでに培った努力の成果を精一杯発揮して、上位入賞を目指している姿に一喜一憂しながら拍手と声援を送っていました。ただ、心の片隅には、アスリートたちが無観客の会場や新型コロナウイルス感染予防対策等の様々な制約がある中で、競技していることを残念に思うとともに、本来であれば、多くの観客からの声援を受けて、大歓声の中でそれぞれのパフォーマンスを発揮してほしかったと心の底から思いました。



しかしながら、純粋にスポーツだけに焦点を当てれば、参加しているアスリート一人一人が、自身の持っている力の限界に挑戦し、一途に競技している姿に感動を覚えるとともに、アスリート自身が自らに誓った強い意志でパフォーマンスしている姿は本当に美しく、見ている者すべてに感動を与えてくれました。

今回のオリンピックでは、ほとんどの日本のメダリストは自らの努力のみで勝ち取ったメダルではなく、監督・コーチ・家族をはじめ、そのアスリートに関わったすべての人々の支えがあって「このようなメダル獲得につながった。」と一人一人が感謝の気持ちを伝えていました。また、コロナ禍の中であって、このオリンピックを陰で支えたボランティアを含むあらゆる人々の支援が

あって今の結果があるとも言っていました。スポーツは決して一人ではできない、人のつながりや数々の支えがあってはじめてできるものです。これこそがスポーツの持つ大きな魅力の一つではないかと思います。とにかく、人類がこれまでに経験したことのない厳しい環境の中で、全世界から集ったアスリートに、そして彼らを陰で支えたボランティアをはじめ、数多くの人に改めて感謝したいと思いました。数々の感動をありがとう！

## 教育委員会の取組

### 西小学校増築等工事がほぼ完成！

7月27日(火)の定例教育委員会が行われたあと、教育委員さんとともに西小学校に増築された校舎と拡張・改修された給食調理室の見学に行きました。工事関係者の方々のご案内で増築校舎の3階の普通教室から2階の普通教室、1階の特別教室へと順に見学させていただきました。床、黒板の下部、教室後ろのロッカーはすべて木材が使用されており、教室に足を一步踏み入れたと同時に、木のとてもいい香りがしました。子どもたちにとって木の香漂う教室は、きっと心も和んで学習にも集中できることでしょう。



教室後方から前方を臨む



教室、中ほどから後方を臨む

2つの教室を見た後、北館3階から増築校舎を見ましたが、外観は本当にきれいで早く子どもたちに使ってほしいと感じました。

廊下の窓側の壁には、教室と同様に奈良県産材の杉板が貼られ、木の香とともに木の温もりにあふれていました。



北館3階から増築校舎を臨む



2階廊下の様子

1階は特別教室になっていて、見学したこの日は、工事関係者の事務室になっていたため、廊下からの窓越しの様子を見学しましたが、普通教室の2倍近い広さがあり、多目的な使い方ができるように思いました。

最後に、児童数の急増に合わせて、手狭であった給食室の増築改修の様子を見学しました。大釜やシンクなどの厨房機器や設備品はまったく新しいもので、床も淡いサーモンピンク色でとても明るい雰囲気がしました。



調理室の大釜



検収室の様子

### 中央公民館で夏休みの宿題をしよう

広陵中央公民館では、新規事業として今年の夏に「中央公民館夏休みの宿題をしよう」を計画しました。その目的は、夏休み期間中の小学生の学習習慣を維持し、夏休みの宿題等をこなしていく場として、7月末から8月のはじめにかけての6日間を設定しました。この事業には、広陵町内にある畿央大学教育学部の学生さん6人にボランティアとして協力いただき、子どもたちの宿題(ドリルや問題集)の分からないところのサポートをしていただきました。

私も8月4日(水)に夏休みの宿題に取り組んでいる子どもたちの様子を見に行かせてもらいました。その日の参加人数はこれまでで一番多く、畿央大学の学生さんも4人来てもらっていました。子どもたちは各自が持ってきた宿題に取り組むとともに、分からないことは学生さんに納得するまで熱心に聴いていました。

私も宿題に取り組んでいる子どもたちに「がんばっているね」「お兄さんに教えてもらってうれしいね」などと声をかけさせてもらいました。子どもたちが熱心にそして集中している姿に本当に見ていて感動しました。

別の日には、書道、絵画、読書、パソコンのタイピング練習をしている子どもたちもいたようです。とにかく、自宅ではなく小学校とも異なった環境で、しかも校区が違う子どもたちが一緒に宿題をするというのは、ある意味、人とのつながりや広がりもできるとてもいい取組だと思いました。

ちなみにこの取組は、8月27日(金)17時30分から奈良テレビ放送の「ゆうドキッ!」で放送される予定です。



## 詩のコーナー

### 朝のリレー

谷川 俊太郎

カムチャッカの若者が  
キリンの夢を見ているとき  
メキシコの娘は  
朝もやの中でバスをまっている  
ニューヨークの少女が  
ほほえみながら寝返りをうつとき  
ローマの少年は  
柱頭を染める朝日にウインクする  
この地球では  
いつもどこかで朝がはじまっている



ぼくらは朝をリレーするのだ  
経度から経度へと  
そうしていわば交替で地球をまもる  
眠る前のひととき耳をすますと  
どこか遠くで目覚まし時計のベルが鳴っている  
それはあなたの送った朝を  
だれかがしっかりと受けとめた証拠なのだ



### 今月の一言

やって見せ、言ってみせて、  
させてみて、誉めてやらねば、人は動かじ

山本 五十六

子育てや教育、人材育成によく使われる言葉で、いくらマニュアルを読ませたり、口で上手く説明したりしても、具体的なイメージがつかめなければ完璧な理解には及びません。

人に何かを教える時は、まず自分が率先してやって見せることが大切で、やってみせた後は、しっかりと説明して聞かせることが重要だということです。そして、見せて聞かせたあとは、実際に相手に実践させて、その成果を評価し、ほめるというかその出来栄えに対し肯定することが何よりも人を育てることにつながるのだと思います。

